



新施設の建築予定場所の西栄寺駐車場を案内する吉田部長

「介護の総合施設」近く起工

浄土真宗単立・西栄寺

“サ高住”14室設置

3階建て、今秋オープン

訪問介護事業などを手掛ける浄土真宗単立・西栄寺（大阪市西淀川区）は、1階部分がデイサービス事業所、2、3階

部分がサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の「介護の総合施設」の建設準備を進めている。今年秋の開所を目指してお

階に7部屋ずつ設ける予定。

専門スタッフに加え、ホームヘルパー2級（現初任者研修）の資格を有する僧侶も常駐し、入浴介助などをする。利用者の日々の悩みや苦しみにも耳を傾ける。

1階の機能訓練室の隣には内陣を設け、本尊・阿弥陀如来を安置。プログラムにある朝の体操に合わせて晨朝勤行や短い法話も行い、「お寺にお参りするような気持ちでデイサービスに通ってほしい」と願う。

「サ高住」の申請書類は大阪市の都市整備局に提出済みで、2月の中頃には起工式を行う予定

だ。

吉田部長は「それは介護の範疇ではない」と言われるかもしれませんが、私たちは利用者さんの家に訪問した時には必ずお仏壇の掃除をします。その時々に応じた対応が必要で介護には答えがありません。新施設が建ち、利用者さんと接する中で、少しでも『お寺らしい介護』の方向性が見えてきたら」と期待する。

山田博泰住職は「宗教法人としてお寺が主体となつて介護事業を運営することでお寺の特徴が出て、またそのことが社会貢献や地域貢献につながっていく」と願っている。（杲恵順）